

令和8年度 府立峰山高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><b>【スクール・ミッション】</b>                      機械創造科・普通科を設置する高校として、大学や地域の関係機関との連携を深め、郷土を愛する心と質の高い学力、グローバルな世界で活躍できる国際感覚を身に付けることによって、創造力豊かに社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p><b>【スクール・ポリシー】</b>                      ○グラデュエーション・ポリシー</p> <p>1 真理を求めろ力                      「学びを究め、個人と社会の幸福を考え、実現する力の育成」</p> <p>2 変化する力                      「自ら成長し、互いに反応し、高め合う力の育成」</p> <p>3 織り成す力                      「一人一人の個性を認め合い、<small>たてよこ</small>経緯に交わり、未来社会を創造する力の育成」</p> <p>○カリキュラム・ポリシー</p> <p>1 質の高い学力を備え、社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。</p> <p>2 高大連携や地域連携等を通して、いさなご探究や課題研究などの充実を図り、STEAM教育の手法を用いて、新たな価値を創造する力を育成する。</p> <p>3 充実した学校行事等を通して豊かな人間関係を築き、互いに高め合いながら、地域や国際社会で幅広く活躍できる力を育成する。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>■ 教職員の働き方改革</p> <p>① 下校時刻の繰り上げ等による時間外勤務時間の縮減（前年度比5%減）</p> <p>■ 生徒の主体的な学びと成長</p> <p>② キャリア・カフェ、ストリート・カフェの整備と活用による効果的な仲間づくり</p> <p>③ いさなご探究や課題研究等の地域連携の継続発展</p> <p>④ 学習活動の充実と良好な進路実績の継続</p> <p>⑤ 1、2年生対象の進路指導の充実</p> <p>⑥ 教職員と生徒会の協議による校則の見直し・変更</p> <p>■ 教育環境の整備・改善</p> <p>⑦ 学校DXの推進に向けた設備整備と普通科・工業科協働による新教科「STEAM探究」の教材開発</p> <p>⑧ 校内への送迎車両乗り入れ許可による通学環境の整備・改善</p> <p>⑨ 同時双方遠隔授業の実施に向けた体制整備と実施</p> <p>■ 情報発信と広報活動</p> <p>⑩ 生徒募集に向けた諸取組の展開</p> <p>⑪ さくら連絡網を活用した保護者等への広報誌の定期的な発行と連絡事項の周知</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>① 教職員の指導力向上と組織的な指導体制の充実による、学力向上と希望進路実現</p> <p>② 教室環境や自習空間等の施設・設備の改善による学習環境の充実</p> <p>③ 学校設定教科「STEAM探究」のさらなる推進</p> <p>④ 高大連携による探究活動の深化</p> <p>⑤ 部活動活性化に向けた施設・設備等の整備</p> <p>⑥ 生徒募集に向けた効果的な広報活動の展開（HPの適時更新、SNSの活用）</p>	<p>1 学校運営・施設設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の意識改革による働き方改革の推進</li> <li>・教職員の授業力向上、生徒支援に向けた研修の推進</li> <li>・多様な生徒の主体的な学習を支援する魅力ある学校施設設備の整備、生徒の居場所づくり</li> </ul> <p>2 広報・地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等を活用した広報のさらなる充実</li> <li>・地域連携の深化と高大連携の推進</li> </ul> <p>3 生徒指導・教育相談・人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事の一層の充実と、部活動・ボランティア活動の活性化</li> <li>・生徒会が中心となって取り組む事業の推進等による、生徒の主体性と責任感の育成</li> <li>・良好な人間関係構築に向けた支援体制の充実と規範意識の向上</li> <li>・各教科や特別活動内でのメディアリテラシー教育推進</li> </ul> <p>4 学習指導・進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次での中高接続を重視した英語教育、探Q留学等府の事業を活用した、国際理解教育の推進</li> <li>・いさなご探究や課題研究の充実、STEAM探究のさらなる教材開発と充実</li> <li>・系統的なキャリア教育の深化による希望進路実現</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	○教職員の意識改革による働き方改革の推進	○ICT活用などによる情報共有の効率化、会議等の内容や進め方見直しを図り、時間外勤務時間を減らす。【前年度比10%減】 ○分掌を超えた情報共有、日常的な連携により、支え合う教職員集団づくり、高い裁量度のある集団作りを目指し、個々の教職員が「働きがい」を感じられる職場づくりを進める。【ストレスチェック職場レポートの「仕事の裁量度」「働きがい」項目で京都府平均よりも+0.2ポイント】		・
	○教育環境や職場環境の更なる充実	○生徒の居場所づくり、自学自習スペースを創出する。【教育相談室や2号館オープンスペースの整備等】 ○STEAM教育が推進できる教育環境を充実させる。【各種事業を活用した設備の充実】		
	○中学生等への計画的な広報活動	○本校の特色や教育内容を計画的かつ効果的に発信し、学校理解の促進と入学意欲の向上を図る。【ホームページの閲覧回数前年度比+5%】 ○Instagramを活用し、各種行事を中心に生徒会が主となって生徒目線での本校の特色・学校生活の様子をタイムリーに発信する。【オープンキャンパス、学校公開時の中学生向けアンケートで「本校のInstagramを見たことがある」90%以上】		
家庭連携・地域連携	○教育活動等の保護者等への情報発信の充実	○ホームページやさくら連絡網を活用し、教育活動や行事の様子、学校からの重要情報を迅速かつ分かりやすく発信し、保護者との信頼関係と連携を一層強化する。【さくら連絡網不達0・学校評価アンケートでの広報認知率80%以上】 ○Instagramを活用し、生徒会が中心となって各種行事や部活動の様子・大会結果報告等をタイムリーに発信する。【投稿回数年15回以上】		・
	○大学や地域の関係機関及び地域の方々等と連携した教育活動の充実	○探究活動や課題研究において来校型授業を実施する。【応募に対する実施率100%】 ○他校・大学・企業などと連携した取組の拡充を図る。【他校（1校以上）、企業（1社以上）】 ○来校型授業等、大学と連携した取組を実施する。【大学（1校以上）】		
人権教育	○教職員・生徒の人権意識の向上	○人権をテーマとした教職員研修を実施し、教職員の人権意識向上を図る。また、教育活動全体を通じて、生徒の自尊感情及び人権を尊重する意識を高める。【人権学習を各学年2時間以上実施】 ○進路指導全般を通じて、自身や他者の人権を尊重する		・

		力を涵養する。			
	○メディアリテラシー教育の推進	○全教科を通じて、SNSやインターネットの適切な利活用について学ぶとともに、デジタル空間におけるクリティカルな情報の捉え方を身につける。【携帯電話についての指導数前年度比10%減】			
生徒指導・特別活動	○規範意識の向上	○普段の学校生活において身だしなみ（頭髪・服装）を整え、落ち着いた学習環境をつくる。 ○儀礼的行事をはじめ、TPOに応じて主体的に判断し正装できる習慣を身につける。 ○貴重品管理をはじめとする危機管理意識の向上に取り組む。			・
	○生徒の自主的な活動の活性化	○行事や校則・規定に対して生徒会が中心となり、全校生徒が主体的に考え、納得して自ら守ろうと行動できるよう支援する。 ○部活動加入率と定着率を向上させるとともに、学習との両立ができる環境をつくる。【新入生の部活動加入率85%以上、全学年部活動加入率80%以上】			
学習指導・進路指導	○主体的に学習できる生徒の育成と希望進路実現	○各学年・分掌との連携を十分に行い、希望進路の実現に向けて生徒の主体的な行動を促す。【国公立大学合格者延べ50名以上、就職内定率100%】 ○各教科・学年と連携して、計画性のある自主学習を推進する。【自主学習時間 各学年1日平均2時間以上】			・
	○STEAM教育の推進	○学校設定教科「STEAM探究」の中で、機械創造科と普通科が連携した学びを引き続き創造していく。また、1年生の「家庭基礎」等の授業や課外活動でもSTEAM教育の要素を取り入れ、多様な視点から学びを深める機会を設ける。			
	○中高接続を意識した英語教育、国際理解教育の推進	○AIアプリを利用し、英語の発信力を涵養できるような授業づくりに努める。			
健康安全・教育相談	○健やかな心身の育成と環境づくり	○生徒保健委員を中心に、健康・環境美化・食育の分野において、生徒主体の取組を推進する。【クリーンプロジェクト年4回、生徒保健委員会たより1回、食育たより2回発行】			・
	○教育相談の充実、特別支援教育の体制整備	○相談予約アプリを周知・活用し、生徒・保護者・教職員が教育相談を受けられる環境づくりを促進する。 ○個別の支援計画を学年・教科と連携して作成し、支援を必要とする生徒の学びをサポートできる体制を作る。			

評価 A：達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

学校関係者  
評価委員会  
による評価

次年度に  
向けた改善の  
方向性